

将来の生き方を考えよう

進路探究セミナーに2500人

札幌市立高・特校長会

札幌市立高校・特別支援学校校長会(佐々木高至会長)は五月八日と九日の二日間、札幌市民ホールで二十六年度進路探究セミナーを開催した。市立高校八校の一年生と山の手養護学校高等部一年生や保護者など約二千五百人が参加。丸吉日新堂印刷㈱の阿部晋也代表取締役が講演したほか、「私の夢・将来の夢」をテーマとした生徒によるパネルディスカッションを通して、これからの高校生活の過ごし方や将来像について考えを深めていた。

映画の主人公のように

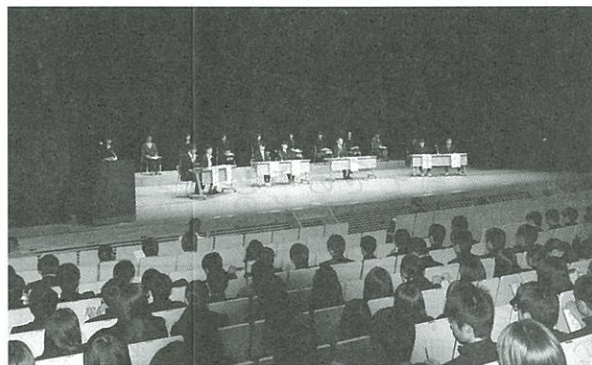
阿部氏 講演



阿部氏は「昔は内向的で引込み思考であり、無難な生き方をして自分で決断できなかった」と自身を振り返り、夢や目標ができたときには、成功した人や過去に経験した人に聞くというアドバイスを挙げた。また、印刷業界の厳しさや、活版印刷職人や写植・製版職人がいなくなった現代社会について話し、「生き残るのは強い人間ではない」と呼びかけた。

将来は宇宙を仕事場に!

高校生がパネルディスカッション 夢実現へ意気込みや方策など発表



進路探究セミナー初日の後半には、「私の夢・将来の夢」をテーマにしたパネルディスカッションを行った。

た「写真下」。代表生徒四人が自身の夢を実現する意気込みを発表。会場の生徒とも具体的な将来像について意見交流した。
コーディネーターは㈱エフエム北海道営業編成局編成部長であり、アナウンサーの千葉ひろみ氏が務め、パネリストとして講師の阿部代表取締役と開成高の國行彩斗さん、清田高の小室亜民さん、新川高の高崎尚哉君、啓北商業高の天野佑君が登壇した。
國行さんは「高校卒業後には理系の大学に進み、いずれは宇宙を仕事場とする企業で働きたい」と話し、高校では内容の濃い理科を学び、使える英語を身に付ける意気込みを表明。ロシア語の学習も考えており、新しいことに積極的にチャレンジする姿勢を示した。
外国語に携わる仕事に就きたいという小室さんは、「海外青年協力隊や国境なき医師団として途上国を助けたい」と発表。これから高校の勉強や行事に一生懸命取り組むことを約束していた。
高崎君は子ども

の視点を入れること③小中一貫で子どもを育てることの必要性を共有するよう指摘。
④では、全国の不登校児童生徒数のデータを分析し、新たな不登校児童生徒を出さないための未然防止の大切さを説明。「早期発見・早期対応は、初期対応であり、発見前の段階の健全育成が未然防止。この二つを分けて認識すべき」とアドバイスした。
また、いじめについて、動機が「はらいせ」から「おもしろい」に変化したこと、加害者と被害者が入れ替わる状況もあること、観衆や傍観者も含めた集団の問題であることを話し、「教育課程に位置付けた計画的な未然防止が準備されているか、早期発見の観点から速やかに情報が共有され、対応できる体制ができあがっているか考え、学校のいじめ防止基本方針

を定める」と求めた。
担任に負担がかかる体制は形骸化してしまうことも指摘し、具体的な実践も紹介。教職員に「様子が気になる子」の名前を書いて職員室の黄色の箱に入れてもらい、複数の名前があれば対応を検討する取組や、日常的に子どもの良い点を又モしていき、Xが少なくなっていく取組を報告した。
このあと、それぞれの学校でいじめ防止基本方針が初期対応と未然防止が区別されているか、課題を踏まえた行動計画となっているかについてペアで話し合させたほか、規律・学力・自己有用感を育むための工夫などについてグループごとに交流を行った。
参加者は「初めて会った先生とも和気藹々と話し合えた。小中学校九年間を意識した取組を進めたい」と話していた。

校区内小学校と合同研

札幌市立東白石中が初の試み

いじめ対応など共通理解

札幌市立東白石中学校(山崎昇校長)はこのほど、同校で校区内の三小学校との合同教職員研修会を初めて実施した。写真上。四校の教職員約八十人が参加。国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターの藤平敦統括研究官を講師に迎え、グループワークを進めている。



今回は教職員同士が交流を深め、お互いの学校文化について理解を深めるため、合同の研修会を初めて行った。

め、合同の研修会を初めて行った。
校長は「中一ギャップ」や小中連携の必要性についてふれ、「日常の子どものための接し方の違いなど小学校と中学校で理解されていないところもある。一歩進んだ連携により、地域に住む子どもを育てるのか皆で考えるきっかけにしたい」と呼びかけた。
次いで、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターの藤平統括研究官が「中学校区で取り組む魅力ある学校づくりや学校いじめ防止基本方針を視野に入れて」と題して講演した。
藤平氏は、①不登校やいじめへの初期対応と未然防止を明確に区別することの

好きな技から挑戦して!

を留意。一人用は連続で何回跳べたかを記録する「回数到達編」と、一分間で何回跳べたかを記録する「時間内回数編」があり、発達段階や子どもの状態に応じて使用できる。ホップ・ステップ・ジャンプ・スロー・スピン・ステップ・ジャンプと難易度ごとに技を設定。二人用では向かい合ったり、横に並んだりなどレベル

「縄跳びチャレンジ」実施呼びかけ

を設けた。
カードには教職員や友達ができる欄があり、友達と一緒にチャレンジする楽しさを感じさせることをねらった。
昨年度は、道教育大学札幌校の学生が跳び方を模範演技した動画DVDも配布しており、今回も必要としている学校・園があれば送付する。また、通知では安全管理に

全市立幼・小に札幌市教委

留意すること、グラウンドや体育館などにおける環境整備を呼びかけている。
市教委では、「運動する時間が減る中、楽しく運動に取り組んでほしい。好きな技から挑戦してこれれば、縄跳びチャレンジの取組を継続しながら体力向上にどうつながるのか効果を検証していきたい」と期待している。

「児童用なわとびカード」は一人用、二人用、長縄跳び

札幌市教委は、全市立幼稚園・小学校に「縄跳びチャレンジ」の実施を呼びかける通知を発送した。「さっぽろっこ」で体力向上推進事業の一環として、昨年度に続いて行う。到達度を記録する「児童用なわとびカード」、跳び方の写真付き説明資料も配布した。